

# Cross of Heart

部署紹介  
脳神経外科

Topics  
JCEP認定決定!

Introduction 登録医のご紹介  
医療法人 おおはし内科循環器内科医院  
医療法人 南昌江内科クリニック

新年のご挨拶 院長  
新年のご挨拶 地域医療連携室

## 「一陽来復」～冬が去り春が来る～



### 福岡赤十字病院外来診察担当医一覧表

○新患及び再来 ●予約のみ ▲午後再来(予約のみ) ※再来は原則予約制です

令和4年1月4日現在

科別	氏名	月	火	水	木	金	専門分野・備考	職名
総合診療科	川本 徹	○	○	○	○	○	内科一般	副部長
	総診当番医①	○	○	○	○	○	※当番医・内科系医師による交番制	
消化器内科	青柳 邦彦	○	○	▲	○	○	消化管(食道・胃・小腸・大腸)	副院長
	平川 克哉	○	○	○	▲	○		副院長
	工藤 哲司	○	○	○	○	○		副院長
	秋吉 大輔	○	○	○	○	○		
	大石 篤美	○	○	○	○	○		
	野村 亜貴子	○	○	○	○	○		
腎臓内科	徳本 正憲	○	○	○	○	○	腎臓	部長
	中井 健太郎	○	○	○	○	○		副部長
	中川 兼康	○	○	○	○	○		
	原 雅俊	○	○	○	○	○		
糖尿病・代謝・内分泌内科	佐々木 伸浩	○	○	○	○	○	糖尿病、代謝、内分泌、生活習慣病	部長
	井元 博文	○	○	○	○	○	※内分沁新患は火・水・金のみ	副部長
	川本 徹	○	○	○	○	○		
	於久 真由美	○	○	○	○	○		
	藤平 美佳	○	○	○	○	○		
	堀内 俊輔	○	○	○	○	○		
循環器内科	中川 瑞穂	○	○	○	○	○	循環器	部長
	向井 靖	○	○	○	○	○		副部長
	増田 征剛	○	○	○	○	○		副部長
	松川 龍一	○	○	○	○	○		副部長
	松浦 広英	○	○	○	○	○		
	徳留 正毅	○	○	○	○	○		
	河合 俊輔	○	○	○	○	○		
	岡原 有秀	○	○	○	○	○		
	岡部 浩祐	○	○	○	○	○		
	酒見 拓矢	○	○	○	○	○		
高血圧内科	大坪 俊夫	○	○	○	○	○	高血圧	部長
	河口 知允	○	○	○	○	○		部長
呼吸器内科	木村 信一	○	○	○	○	○	呼吸器一般	部長
	増本 駿	○	○	○	○	○		副部長
	平田 慎治	○	○	○	○	○		
肝臓内科	早田 哲郎	○	○	○	○	○	肝疾患一般	部長
	西澤 新也	○	○	○	○	○		部長
血液・腫瘍内科	宮山 隆志	○	○	○	○	○	血液疾患一般	部長
	福山 真	○	○	○	○	○	固形腫瘍の化学療法	副部長
	谷本 一樹	○	○	○	○	○		
	平安山 英穂	○	○	○	○	○		
脳神経内科	河野 一郎	○	○	○	○	○	脳卒中・神経疾患	部長
	次郎丸 高志	○	○	○	○	○		
	北山 次郎	○	○	○	○	○		
	岡田 卓也	○	○	○	○	○		
膠原病内科	佐原 範之	○	○	○	○	○	膠原病	部長
	池内 泰仁	○	○	○	○	○		
	井上 靖	○	○	○	○	○		
感染症内科	田中 淳	○	○	○	○	○	感染症一般	副院長
	高月 健作	○	○	○	○	○	※金は午後のみ(13時～15時受付)	
	石丸 敏之	○	○	○	○	○		
	岩坂 翔	○	○	○	○	○		
外科	横山 貴士	○	○	○	○	○	一般外科	院長
	渡部 遥	○	○	○	○	○	消化器外科、肝胆脾外科	副院長
	中房 祐司	○	○	○	○	○	乳腺・内分泌外科	部長
	永井 英司	○	○	○	○	○	呼吸器外科	部長
	本山 健太郎	○	○	○	○	○	腹腔鏡下・胸腔鏡下手術	部長
	小島 雅之	○	○	○	○	○	腎移植、腎不全外科	部長
	上田 純二	○	○	○	○	○	ERCP、PTCD、EST	部長
	井上 重隆	○	○	○	○	○		副部長
	小倉 康裕	○	○	○	○	○		
	梁井 公輔	○	○	○	○	○		
	安井 隆晴	○	○	○	○	○		
	松田 圭央	○	○	○	○	○		
	松永 壮人	○	○	○	○	○		
	中房 祐樹	○	○	○	○	○		
(緩和)乳 腺	鬼塚 哲	○	○	○	○	○		
	林田 さゆり	○	○	○	○	○		
	廣高 健斗	○	○	○	○	○		
	倉元 通宇	○	○	○	○	○		
心臓血管外科	山崎 章生	○	○	○	○	○	心臓外科、大動脈瘤	部長
	非常勤医師	○	○	○	○	○	血管外科	副部長
脳神経外科	小江 雅弘	○	○	○	○	○	脳腫瘍	部長
	恩塚 龍士	○	○	○	○	○	脳血管障害(脳卒中)	部長
	堀 仁	○	○	○	○	○	脳神経外科疾患	部長

●受付時間 8時10分～11時00分 (診療開始 8時40分)

※診療科の備考欄に特に記載のない場合に限りです。

●急患診療体制

※救急車や医療機関からの紹介患者の受入れは、24時間体制で対応いたします。

内科系	平日	17時00分～23時00分
	土・日・祝日	8時30分～23時00分
小児科	平日(祝日除く)	17時00分～19時30分
	土(祝日除く)	9時00分～17時00分

●休診日 土・日・祝・年末年始(12/29～1/3)

※出張等で休診する場合がありますので、事前に各診療科にお尋ねください。

福岡赤十字病院 広報誌 Cross of Heart 2022.1 冬号 vol.50

病院管理者【院長】中房祐司 【副院長】青柳邦彦、清真一、永井英司、石丸敏之、平川克哉 【事務部長】田中秀隆  
2022年1月発行(第50号)/福岡赤十字病院企画推進課 〒815-8565 福岡県福岡市南区大橋3丁目1番1号 TEL0570-03-1211  
https://www.fukuoka-med.jrc.or.jp/



福岡赤十字病院

病院の理念

信頼と調和に基づく最良の医療  
～地域を尊重、世界を視野に

基本方針

1. 質の高い安全な医療
2. 救急医療
3. 国内外の医療救援活動
4. 地域連携
5. 教育・研修・研鑽
6. 患者・職員満足度の向上



福岡赤十字病院 院長

中房 祐司

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本国内で最初の新型コロナウイルス感染症(コロナ)の患者さんが報告されてほぼ2年が経過しました。この間、私たちはコロナに振り回され、大変な思いをしてきました。社会全体が活動自粛を強いられ、経済的にも大きなダメージを受けました。2020年春の第1波から昨年夏の第5波まで、一旦感染者数が減少しても次にはさらに大きな感染流行の

波が押し寄せてきました。私たちの心は繰り返す波に吞まれて収束の期待も持てなくなっていました。

ところが、昨年10月以降、コロナの新規感染者が減少し、予想以上に安定した状態が続いています。このように安定して新規感染者が少ない状況が続くと、コロナ禍からの出口に到達したようにも思えてきます。このまま、コロナ前の生活に戻れるのではないかという気持ちになります。

しかしながら、日本における新規感染者の減少は、コロナに対して高い抗体価を持つ国民の割合が一定のレベルに達した結果として、一時的にもたらされた状態と考えられます。比較的短期間に非常に多くの国民がワクチン接種を終了した成果であり、一日100万人接種の号令が功を奏したことになります。また、マスク着用など日常生活における感染予防策の励行が日本における感染者の著しい減少を後押ししていると思われる。

したがって、この感染者が減少した状態を安定的に保つためには、抗体価の維持を目的としたブースター接種やマスクを中心とする日常生活での感染予防策の継続が必要でしょう。また、感染性が強いとされる新しい変異株(オミクロン株)の問題もあります。パンデミックの出口へ辿り着くためには、焦らず必要な対策を着実にやりながら少しずつ歩を進めるのが良いと思います。

私たちは、この2年間、大きな代償を払いながらもパンデミックの中での生活方法を学びました。もし次の波が来てもどうにか乗り越えることができるという自信を多くの日本国民が持っているように感じます。現在の状況を考えると第6波が来たとしてもコロナ禍からの出口は確実に近づいています。辛抱強く、慎重に歩を進めることが望まれます。

さて、当院は感染症指定医療機関として多数のコロナ患者さんの診療を行って参りました。現在まで通常診療も抑制することなく

行うことができています。地域の基幹病院として、これまで医療崩壊を起こすことなく、医療提供体制を維持できていることに安堵致しております。これは当地域における行政も含めた良好な医療連携・協力体制によるところが大きく、関係する全ての方々に感謝申し上げます。

当院は今年もコロナ再流行に対応できる体制を保ちながら、一般診療をしっかりと継続します。そして、診療内容をさらに充実させるように努めて参ります。この地域にお住まいの方々や近隣の先生方が安心できる診療体制を整えていく所存です。

本年も皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

令和4年1月吉日

Cross  
Heart



地域医療連携室  
青柳 副院長

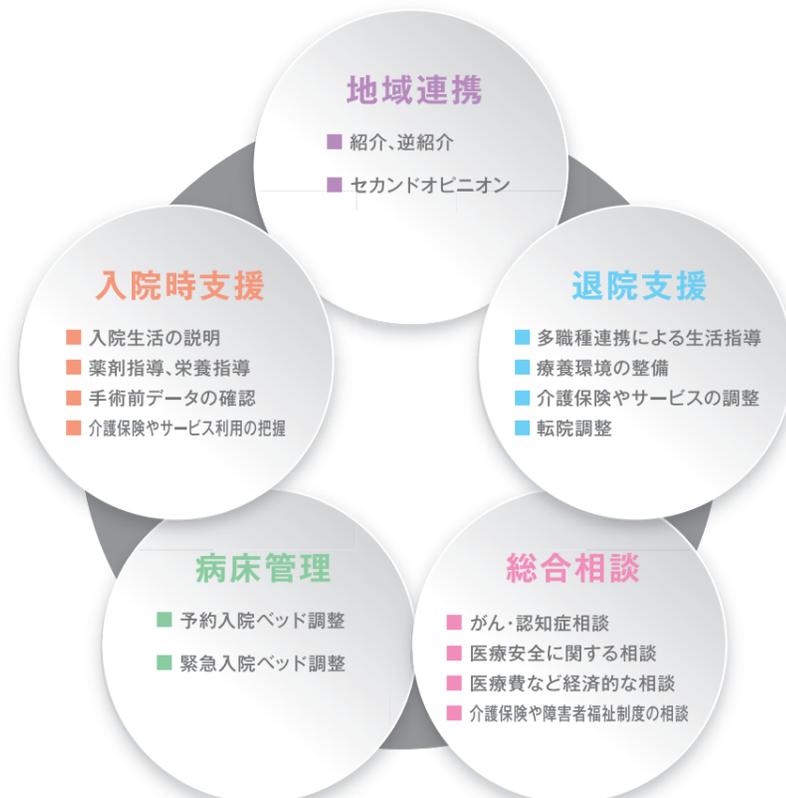
地域医療連携室より新年のご挨拶申し上げます。

当院は地域の医療機関との積極的な連携を中心に成り立っています。そして病院を受診される皆様およびご家族のニーズに応え、求められる最善の医療を提供できるよう日々努めております。病診・病病連携の窓口は、平日時間内は地域医療連携室、またそれ以外の時間外は救急外来事務が担当しており、各科24時間体制です（なお時間外の小児科は入院のみ対応）。

当院では、昨年4月より患者サポートセンターを設置し、地域連携に加え、入院時支援、退院支援、病床管理、総合相談という5つの業務を統括した機能的な運営を開始しました（図）。中でも入院支援業務を大幅に拡充し、予定入院患者のほぼ6割に達しました。看護師・薬剤師・一部麻酔医や管理栄養士が面談とアセスメントを行い、スムーズな入院治療に繋がっています。また、新型コロナに対応するために病床数を減らさざるを得ない中で、隙間を活用する病床管理を小まめに行い、入院依頼への不応需率を低いレベルに維持できています。

今年は、医療機関から紹介された患者向けの外来診察時間予約枠利用を推進するとともに、懸案となっている外来患者の採血待ち時間の短縮に向けても病院として取り組んでいるところです。今後とも円滑な地域医療連携に向けてよろしくお願い申し上げます。

## 患者サポートセンター



脳神経内科をご存知でしょうか。

私たち脳神経内科医が専門としているのは、その名の通り脳や神経系の疾患です。神経以外にも神経と筋のつなぎ目（神経筋接合部といいます）や筋に生じる病気も対象としています。また、脳の循環障害、いわゆる脳梗塞の原因となるような頭部や頸部の血管病変も重要な疾患です。

そもそもひとくちに神経といっても中枢神経系と末梢神経系があり、中枢神経には脳と脊髄が、末梢神経には感覚神経と運動神経、それに自律神経が含まれます。これら神経系が正常に機能することによってヒトは意識を保ち、身体の内外からの多彩な情報を脳へ取り入れながら逐次判断・処理して、日常の精神活動や行動を行っているのです。このような神経のシステムが病気になってしまうと、身体のいろいろな機能障害が症状として現れて、時に後遺症となって生活に不都合を生じます。わかりやすいところでは感覚神経の障害であれば、ジンジンとしたしびれ感や感覚の低下を生じますし、運動神経の障害であれば筋力低下・麻痺を呈します。他にも障害された部位や程度に応じて、意識の低下や、けいれん、頭痛、もの忘れ、言葉が理解できない、話せない、字が書けない、計算できない、いつも使う道具が使えない、空間の半側を無視する、ものが二重に見える、眼の見え方がおかしい、瞼が開きにくい、呂律が回らない、飲み込みにくい、ふらつく、手足が震える、歩行が上手くできない、姿勢がおかしい等々書ききれないほど様々な症状が現れます。このような症状がある日突然予兆なく出現することもあります。自覚症状に乏しい場合も時にあります。逆に言えば、このような症状から複雑な神経系のどこが障害されているのかを推理し、原因を調べ

上げて、治療していくのが私たちの役割です。

CTやMRIなど、昨今の医療機器の進歩によって体の中の小さな病変も非侵襲的に、短時間で比較的簡便に見つけることが可能となりました。脳神経系の疾患においても画像診断の果たす役割は非常に大きく、これらなしの診療はもはや想像できません。かといって、画像検査をやれば全て簡単に診断が付くというわけでもありません。やはり大事なのはいつから身体のどこにどのような症状が生じて、どういった経過を辿っているのか本人や近い人から詳しく病歴を聴取すること（一分一秒を争う救急ではこの限りではありませんが…）。そして、頭から足先まで系統だった神経診察を行うことです（例えば眼にライトで光を当てたり、手足をハンマーと呼ばれる器具でトントンとするやつですね。あれらは神経系の評価の一環です）。こうして得られた情報を元に推定した病変と、画像所見とが合致するか吟味してこそ画像検査が生きてと言えます。

福岡赤十字病院は救急病院であり、脳神経内科へも突然生じた体調不良のため多くの方が救急受診されます。一方で、数日から数週、時に数ヶ月から数年の単位で推移する症状を抱えて外来受診される方も多数おられます。いずれにしても神経疾患の多くは身体の機能障害に直結するものです。自分の身体、あるいは家族の調子が“いつもと違う”、“なんとなくおかしい”と感じた場合が実は緊急信号、レッドフラッグである可能性は否めません。そのまま様子を見ておこう、寝とけば良くなるだろうという考えはとりえず脇に置いて、いつでも早期にご相談ください。当科はスタッフ4名と少人数ではありますが、日々昼夜を問わず対応中です。

# JCEP 認定決定!

この度、当院は同機構の基準を満たす臨床研修病院として、4年間の認定を受けました。当院では今後も引き続き研修プログラムの充実を図り、研修医の臨床研修に積極的に取り組んでまいります。



## JCEP (NPO法人 卒後臨床研修評価機構) とは?

国民に対する医療の質の改善と向上を目指すため、**臨床研修病院における研修プログラムや研修状況の評価**を行い、我が国の医療の発展に寄与するとともに、臨床研修病院の質の向上を図ることを目的として設立された機関です。

このJCEP訪問調査を受審することで、外部評価を受けその定める基準に達しているということを広く内外にアピールすることができ、受審を通して現在の当院の評価を知り改善するきっかけになることが期待されます。



## 評価対象領域

以下の領域において、臨床研修病院としての機能を審査・評価します。

- 01 臨床研修病院としての役割と理念・基本方針
- 02 臨床研修病院としての研修体制の確立
- 03 臨床研修病院としての教育研修環境の整備
- 04 研修医の採用・修了と組織的位置付け
- 05 研修プログラムの確立
- 06 研修医の評価
- 07 研修医の指導体制の確立
- 08 修了後の進路

## JMIP受審の様子



## 地域とともに! 登録医紹介

当院の基本理念である「信頼と調和に基づく最良の医療～地域を尊重、世界を視野に」を行うための心強いパートナーとなる登録医の先生方をご紹介します。

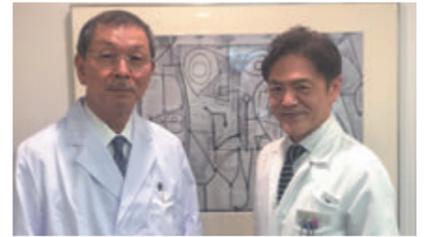
### 医療法人おおはし内科循環器内科医院

#### Q クリニックの診療内容・特色

当院は旧佐田内科循環器科医院を継承し、平成27年7月より現在の場所に移転を機に新体制で診療に臨んでいます。患者様は近隣の福岡市南区はもとより、春日市、那珂川市、大野城市、太宰府市からもご来院いただいています。院長の中島光一が腎臓内科・人工透析を、副院長の石岡規生が循環器内科・一般内科を主として担当し、心腎連関に配慮した診療を実践することが最大の特色と自負しています。特に透析患者様は心血管合併症を多く有し、循環器専門医が迅速に診断治療できることは患者様の大きな安心につながると思っています。より高度な対応を要す場合は高次総合病院との連携が欠かせません。その点、福岡赤十字病院は各科の先生方ならびにスタッフの皆様には日頃より大変お世話になっており心より感謝いたします。特に、24時間対応の循環器専用ホットラインは、緊急時に心強い病診連携の要として活用させていただいています。

#### Q 地域の皆様へ一言

当院をご利用いただく皆様には、ご自身でできる健康管理のポイント：  
 ✓『「**血圧**」と「**体重**」は簡単に測れる健康バロメーターです。』  
 ✓『**あなたの身体は、あなたが食べたものでつくられています。**』  
 をお伝えしています。医食同源の理念を旨として、医療と密着した生活習慣の改善を目指します。減塩減量の指導にも丁寧に、必要な方には積極的に栄養管理指導を取り入れています。透析患者様には、健康な人と変わらないQOLの維持を目標に、心血管病やがんの早期診断に努めています。お一人お一人に寄り添い、分からないことは何でもご相談いただける雰囲気と清潔で心安まる環境のなか、誠実な医療をご提供することを心がけています。



理事長・院長 中島 光一 先生  
(日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会)  
 副院長 石岡 規生 先生  
(日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本高血圧学会専門医、日本透析医学会)  
 住 所 〒815-0038 福岡県福岡市南区大橋団地4番7号  
 T E L 092-512-5225  
 診療科目 内科、循環器内科、腎臓内科、人工透析内科  
 診療時間 午前 9:00~13:00 (12:30 受付終了)  
 午後 14:00~18:00 (17:30 受付終了)  
 透析時間 月・水・金 午前 8:30~10:00 入室  
 午後 15:30~17:00 入室  
 火・木・土 午前 9:00~10:00 入室

### 医療法人南昌江内科クリニック

#### Q クリニックの診療内容・特色

1998年に開業し、総勢15名のスタッフで診療を行っています。当院は最先端の治療を含め幅広い治療が可能で、1型糖尿病の患者さんも多く、県内のみならず県外からお越しになる患者さんも少なくありません。糖尿病は一生付き合っていく必要のある病気で、食事や運動、生活習慣の管理などのために継続して通うことがとても大事なのですが、平日や土曜日の来院が難しい患者さんのために、月に1回日曜日の診療も行っています。医療スタッフは全員糖尿病療養指導士の資格を有しており、健康運動指導士や管理栄養士と連携してチーム医療に取り組んでいます。また、患者さんが病気と仲良く付き合っていけるよう、オンラインも活用しながら患者会や各種勉強会など交流の機会を設けています。4年前には南糖尿病臨床研究センターを創設しました。患者さんの治療や生活に資する臨床研究を行うことを目的としており、現在複数の臨床研究が行われています。

#### Q 地域の皆様へ一言

地域の先生方は、糖尿病でお困りの方がいらっしゃいましたらぜひ当院にご紹介ください。管理栄養士や健康運動指導士が常勤しておりますので、食事や運動だけの紹介でもお受けできます。私自身やもう1人の常勤医師の前田先生も1型糖尿病です。スタッフにも同じ病気の人がいますし、何より全てのスタッフが糖尿病のエキスパートです。ぜひ気兼ねなくなんでもご相談ください。糖尿病は、治療するというよりも「ともに歩いていく」「上手に付き合っていく」病気です。「元気を発信するクリニック」をモットーに、スタッフと共にさらに充実した糖尿病診療に取り組んでいきたいと思っています。



院 長 南 昌江 先生  
(日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医)  
 一般社団法人 南糖尿病臨床研究センター  
 センター長 前田 泰孝 先生  
(日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医)  
 住 所 〒815-0071 福岡県福岡市南区平和1-4-6  
 T E L 092-534-1000  
 診療科目 糖尿病内科、内科  
 診療時間 月・火・木・金 午前 9:00~12:00  
 午後 14:00~18:00  
 水曜日 午前 9:00~12:00  
 土曜日 午前 8:15~12:00  
 日曜日(月に1度) 午前 9:00~12:30  
 休 診 日 水曜午後・土曜午後・日曜祝祭日